

# Mon Nara



Numéro250

Association Franco-Japonaise de Nara 奈良日仏協会 Mai-juin 2012 5,6 月合併号

(ホームページに掲載される会長挨拶が更新されましたので、Mon Nara 誌上でも改めてご紹介します)

## 会長挨拶

奈良日仏協会は、フランスが好きで、フランスに興味を持つ人達の集まりです。

私達は、フランス、およびフランス語圏の国々との友好、親善、文化交流を図りつつ、会員相互の親睦を深め、楽しく集う会です。会員数は約 100 名を数え、再来年（2014 年）には 20 周年を迎えます。

私事で恐縮ですが、未だ日本が経済的には先進国に仲間入りしようとする頃、しばらくフランスに留学する機会があり、その時の美しい街なみをはじめ、一言では言い表せないフランスの文化に魅せられ、若い時から大きな影響を受けてきました。

奈良県（大和）は聖徳太子の十七条憲法制定など、はじめて日本が国家としての形態が作られた歴史的な土地で、多くの由緒ある神社、仏閣、国宝、重要文化財があります。大和は国のまほろば。その中心、古都奈良は日本の原点であり、芸能発生の地であり、古くからシルクロードを通じて、大陸との交流がありました。奈良を拠点に、私達は奈良を勉強しながらフランス、フランス語圏との文化交流を深めたいと考えております。

フランスといえば、芸術、ファッション、料理などがよく話題になりますが、農業、科学技術、宗教、経済など幅広い分野に興味深いものがあり、それらを紹介し勉強しながら相互の文化交流を進めたいと考えております。

更に、これらにとどまらず、人と人との楽しい交流の場、知的好奇心を満たす生涯学習の場、文化活動の場となることを願っております。

さし当たって具体的な活動としては、会誌「Mon Nara」の 2 ヶ月毎の発行、会員・関係者相互の親睦会として、新年会、お花見会、ボジョレの夕べなどを開催、教養講座（美術、音楽、講演）の開催、会員が主宰するフランス語講座ならびにシャンソン教室の紹介、コンサート、フランス映画シネクラブ、フランス文学読書会、フランス生まれの手芸講座、ガイドクラブ、更には在日フランス人との交流、フランス地方都市との友好親善、ホームステイなど。浅学非才の自分ではありますが、努力いたしますので、よろしく願いいたします。

随時、会員募集をしておりますので、フランスにご興味のある方は、お気軽に事務局までお問い合わせください。

奈良日仏協会 会長 坂本 成彦



## 「フランス文化センター日本」 (L'institut Français du Japon) 誕生

5 月 10 日（木）駐日フランス大使館公邸にて「フランス文化センター日本」発足のレセプションが行われ、招かれたので、報告します。

駐日フランス大使館文化部、および東京日仏学院、横浜日仏学院、関西日仏学館、九州日仏学館の統合により「フランス文化センター」が出来、これにより、より強固な基盤を活用して日本の文化界とのパートナーシップを深めようとするものであります。

現在、世界では文化センターが幾つもあり 8,000 人の職員が文化の絆を深める為に働いていて、日本はその代表的な一つであり 250 人が活動しているそうです。

はじめに主催者側から、クリスチャン・マセ駐日フランス大使の挨拶があり、引き続きフランス文化センター・パリ本部理事長グザヴィエ・ダルコス氏、そしてフランス大使館文化参事官兼フランス文化センター代表のベルトラン・フォール氏の挨拶があり、そのあと 4 人の来賓、アラン・シャンフォール（歌手）、寺島しのぶ（女優）、サエキけんぞう（ミュージシャン、作詞家、音楽プロデューサー）、別所哲也（俳優、声優、ナレーター、歌手）が登壇紹介され、続いてテープカットのあと大使の音頭で乾杯、祝宴に入りました。

公邸中庭ではコンサートや黒衣の集団パフォーマンス“ささやき”、マジックショーなども準備されました。

広い公邸屋内が 800 人の出席者で立錫の余地も無いほどの賑わいをみせ、ワインと料理のbuffetを楽しみながらフランス語、日本語で大いに盛り上がりました。（坂本 成彦）



名句の花束 (21)

副会長 三野 博司 (奈良女子大学教授)

Vienne la nuit sonne l'heure / Les jours s'en vont je demeure (2)  
 夜よ来い 時よ鳴れ / 日は流れゆき ぼくは残る  
 (アポリネール「ミラボー橋」1913)

(承前) アポリネールが 1913 年に発表した詩集『アルコール』には、時代を先取りした彼の前衛性を代表する詩である「地帯」と、古典的で甘美な抒情性をたたえた「ミラボー橋」と、それぞれ異なった性格をもつ詩が収められています。まずは冒頭的一篇「地帯 (Zone)」から。

「A la fin tu es las de ce monde ancien

Bergère tour Eiffel le troupeau des ponts bèle ce matin

とうとうおまえはこの古い世界に飽きてしまった  
 羊飼いの娘よ おおエッフェル塔 橋の群れはけ  
 さめえめえと泣いている」

S  
 A  
 LUT  
 M  
 O N  
 D E  
 DONT  
 JE SUIS  
 LA LAN  
 GUE È  
 LOQUEN  
 TE QUESA  
 BOUCHE  
 O PARIS  
 TIRE ET TIRERA  
 T O U JOURS  
 AUX A L  
 LEM ANDS

前回述べたように、この詩集ではいっさいの句読点が廃されています。この始まりの二行は、新しい詩のヴィジョンを挑戦的に展開するにふさわしいものです。一行目で「おまえ」と自分に呼びかけてあらたな創造が必要であることを示唆し、二行目ではエッフェル塔

に向かって大胆なメタフ

ァーを用います。  
 エッフェル塔は、フランス革命 100 周年にあたる 1889 年に開催されたパリ万博のときに建設されました。万博が終われば取り壊される予定であったのが、幸いに生き延びることになります。建設当時、モーパッサンを初めとする当時の作家・芸術家に嫌われたエッフェル塔も、二〇世紀に入って、新精神を標榜する芸術家たちによって歓迎されるようになりました。すでにスーラは、おそらくは建設途中の姿であろうと思われる頂上の部分の欠けたエッフェル塔を描いており、これがもっとも早い時期に描かれたエッフェル塔の絵だといわれています。他にも、ルソーの自画像の背景を構成するパリのモニュメントの一つとして、またシャガールの空中遊泳する恋人たちを祝福する事物の一つとして、エッフェル塔が描き込まれました。

しかし、この塔にもっとも強く惹きつけられた画家はドロネーでした。彼は、連作「窓」や「ブレリオ讃歌」などの画面に塔の姿を描き込んでいますが、そればかりでなく、1909 年から二年間にわたってエッ

フェル塔の連作を制作しています。そこで彼は、光によって解体されたこの塔を、10 個の視点と 15 個の遠近法をもちいて描き、相矛盾する平面の組み合わせによって、300メートルの高度がもたらす眩暈を表現しました。塔は、もはや静止した建造物ではなく、ダイナミズムの表明となったのです。



アポリネールは言葉を塔の形に並べた絵文字の詩までつくっていますが、とりわけ「地帯」の最初の二行が提示するイメージが鮮烈です。彼は、この新しい建造物である鉄塔を羊飼いの娘に見立てます。そしてセーヌに架かる橋々を羊の群れに、曳き船のサイレンを羊の鳴声にたとえるのです。パリの一日の始まり、それは新しい時代の始まりでもあるのです。

そして、この「地帯」の最終句もまた、印象的なものです。

「Soleil cou coup 太陽 首 切られ」

声に出して読んでみるとわかるように、cou [k] の音の重なりが効果的で、断頭台の刃が落ちてくるような、突然の荒々しい終結です。古い世界の終焉を告げると同時に、これから詩人によって歌われる新しい世界までが、すでに死を宣告されているかのようです。

ところで、大阪万国博覧会の時に岡本太郎によって設計された「太陽の塔」は、このアポリネールの詩に淵源があるという塚原史氏の卓抜な指摘があります(『人間はなぜ非人間的になれるのか』ちくま新書)。詳細は省きますが、1930 年をパリで過ごした岡本太郎が、アポリネールの詩句にならって太陽と斬首を結びつけたバタイユの思想に触れたことがきっかけとなっています。「太陽の塔」とは、首を切られた太陽=女性があらたな太陽=新生児を産み落とそうとしている姿なのです。奇才が作り出したあの異形な建造物の着想が、アポリネールの詩にまで遡ることができるという解釈はたいへん興味深いものです。

『アルコール』に収められたもうひとつの有名な詩「ミラボー橋」については次号で。

5月6日、フランスの大統領選挙の結果、フランソワ・オランド氏が新たな大統領となった。ミッテラン大統領以来の社会党の大統領であることや、本人も相当にミッテランを意識した選挙戦を行ってきたため、その後継者と呼ぶ人もいる。とある新聞ではフランソワ2世（ミッテラン氏もファーストネームがフランソワなので）というタイトルをつけていた。

フランスの大統領の任期はかつては7年であったが、2002年以降5年任期となっている。1958年に第五共和政になってからは、国民の直接選挙で選ばれている。23歳以上のフランス国籍を持つ人であれば誰でも大統領に立候補することができるが、正式に候補として認められるためには、500人以上の議員や地方自治体の首長らによる信任の署名を集めないといけない。今回の大統領選挙でも、立候補を表明した候補者のうち2人がこの署名を得られずに脱落している。

最終的に10人の候補が選挙戦を戦うことになった。まず4月22日に第一回投票が行われた。この時点で過半数の票を得た候補がいれば大統領選はそこで終わりであるが、現実には1965年以来大統領が一度の投票で決まったためはない。そこで第一回投票の二週間後に、上位二名による決選投票が行われることになる。この間、大統領候補二名による公開討論がテレビで中継される。もちろん各陣営は、パンフレットを配ったり、フランス各地で候補者の演説会を行ったりと忙しい。何千人、何万人単位での支持者との集会が開かれるなど、選挙戦も盛り上がってくる。そして今回のオランド氏の勝利となった。

選挙期間はあちこちで政治談議が聞かれるが、子供たちまでいっばしに候補者の批評をしている。大統領選の日はたまたま7歳になる下の子の誕生会だったのだが、家に来ていた小学生たちが、「サルコジかオランドかどっちに投票する？」などと言っていたのはおかしかった。もちろんこの年代だと親が言っているのを繰り返しているだけだろうが、中学生・高校生ぐらいになると、それなりに自分の意見を述べている。やはり自らの国の代表を自ら選ぶということが、必然的に政治への関心を高めることになるのだろうか。



さて、新大統領のオランド氏だが、その手腕に関しては未知数が多い。今まで一度も大臣職などを経験しておらず、本来社会党の有力候補だったストロス＝カン氏が、ニューヨークで暴行容疑で逮捕されたことに始まる一連のスキャンダルで失脚したために、急遽その代わりとして選ばれたというイメージが強い。ギリシャやスペインが破綻寸前という状態であり、国内では大企業のリストラ計画がいくつも発表されており、治安の悪化も問題になっている。オランド氏は果たしてドイツのメルケル首相やアメリカのオバマ大統領と渡り合っているのだろうか。社会党が発表した政策にはドイツやアメリカの政策と真っ向から対立するような内容があるのだ。また財政難の中、公務員の増員や福祉政策の充実、あるいは賛否両論の外国人への参政権の付与、同性婚の合法化などの数々の公約を実現できるのだろうか。もし実現できなかった場合、期待が大きかった分失望も大きいだろう。大統領が変わったらすべてよくなると思っている人も多いみたいだから。

敗れたサルコジ氏は、政治の一線からは引退し一国民としてフランスを見守ると述べている。他の元大統領候補たちや国民連合（サルコジ氏の党）の大臣たちは、すでに6月に行われる国会議員選挙の準備にとりかかっている。5月16日には新内閣のメンバーが発表された。平等をうたい文句に大臣の男女の数が全く同じになっている。これからフランスがどう変わっていくのか、あるいは変わらないのか、これから次第にはっきりするだろうが、一つだけ確かなのは近いうちに税金があがるだろうということだ。こればかりは選挙の結果が違っていても、避けられなかつただろう。

～「私たちの老後のこと」～

理事 井田 真弓

当協会の皆さんには、老後はまだまだ先の出来事でしょうか。

私共夫婦は子供がおらず、自分たちで老後の心配をしなければなりません。祖母が居住していた母屋があり、そこを改築し、平成15年4月に何と無謀にもデイサービスセンターを開設した次第です。

私共の施設には珍しく、男性のご利用者が多いです。33人（男性11人・女性22人）男性の方で、自分史を作られたり、書道等で、ご自身の趣味を生かした過ごし方をされています。高齢化と趣味とが、豊かな老後をもたらしていると、学びました。

その他に、俳句・川柳・語源・短歌など発表、麻雀教室（土曜日昼より）をやっています。ご利用者は、ご自身のペースで、リハビリ体操、歩行、個別リハビリに汗を流されています。

デイルームの東側には、ご先祖様が残してくれた庭があります。そこで、天気の良い日はお茶をし、さわやかな風の中会話が一段と盛り上がります。

ところで、今やデイサービスセンターも競争時代に突入し、高齢者をターゲットに事業化し、全国展開の介護関連の会社、大手上場会社等も参入している状況です。

私共有限会社の生き残る道は、何かに“特化”することが安定への道と模索しておりました。

ここに弊社の経営理念を記載しますと、

1. 私たちは、利用者様とお互いに尊敬の念を持ち、その方にふさわしい自立のあり方を援助し、ご家族と共に介護を担います。
2. 私たちは、小鳥もやってくる庭に面したデイルームを提供し、正しいことを貫き、地元の皆様からも信頼される会社を目指します。
3. 私たちは、お互いに心を通じ合い、夢の実現と安心して働ける場に、研鑽を重ね、豊かな職場づくりを目指します。

2番掲げた「小鳥もやってくる庭に面したデイルーム」に注目し、そこをもっと活用し、その庭をデイの施設内だけでなく、地元、地域の方にも提供していきたいと考えました。

その理由の一つとして、ここ法蓮町には皆さんが気軽に憩う場がないことにあります。一念発起し、環境省主催の「みどり香るまちづくり」企画コンテストに応募しました。これにはマザーワークという子育て中のスタッフの活躍がありました。企画から、この庭が地域でどの様に生かされるかなどを提案し、またデイサービスに面する庭ということも視野に入れ、地域と



【植樹式の会場】

施設の両方が活用できる庭を目指した企画書を作り上げたのです。その結果、思いがけずその「コミュニティガーデン」の企画が採用され、1月16日に東京のホテルで表彰していただきました。

NPO法人グリーンネットワーク谷口代表との出会いもあり、2月～4月にかけて4月11日開催予定の植樹式に間に合うよう庭を整備していただきました。そこには、ボランティアさんたちの加勢もあり、あり難かったです。

4月11日『植樹式』、におい・かおり環境協会の事務局次長さん、中小企業家同友会の代表理事とメンバー、自治会長始め地元の皆さんとご利用



【植樹光景】

者その家族31名様に参加くださいました。中でもご利用者代表の祝辞が皆さんの心を感涙へと誘いました。

その中で、「苗木は童話のようにスクスクと伸び、花が咲くわけではありません。」とのお話の通り、あとは私共の責任と役割があります。副賞で頂いた樹木・苗木176本のうちの一部の樹木、バラの苗木(60本)を皆さんで手植えて戴きました。それに関連し、参加下さったボランティアさんに声掛けをし、庭のプラン・整備を目的に集って下さる事になりました。

尚、日仏の理事の森井様のご主人がバラに精通されているので、アドバイスを頂戴した事をここに感謝いたします。



【植樹後、バラ園入口に咲いたアンジェロ】

## J'ai une idée sur Jeanne d'Arc et Evariste Galois

Mitsunobu ISHIDA

Il y a environ quatre ans, nous avons vu à la NHK Jeanne d'Arc. Comme l'actrice qui était très mignonne, j'ai été impressionné par ce personnage historique de Jeanne d'Arc. Voulant la connaître plus, je suis allé à la bibliothèque de ma ville pour chercher un livre sur elle.

En ce temps-là, moi, comme j'étais en train de soigner ma mère, je n'avais pas de temps libre, j'étais absorbé sur ma bicyclette avec le sentiment de connaître Jeanne d'Arc.

En chemin, le nom d'Evariste Galois s'est présenté aussitôt à mon esprit. (Je ne sais pas pourquoi.)

Et en même temps, je me suis demandé comment la France se serait portée si Jeanne d'Arc et Evariste Galois avaient vécu à la même époque. (Ah oui, c'est une bonne idée.)

Ce sont la fille de Dieu du quinzième siècle, Jeanne d'Arc, ainsi qu'Evariste Galois, jeune génie mathématicien du dix-neuvième siècle, qui n'a vécu que pour l'amour, la révolution et les mathématiques.

Maintenant, je n'ai pas de temps libre, mais un jour, quand j'en aurai, je voudrais écrire un roman d'amour avec ces deux personnages comme héros.

J'élabore petit à petit le plan de ce roman.

ジャンヌ・ダルクとエヴァリスト・ガロアについて思ったこと

会員 石田 充伸

4年ほど前だったか、NHK テレビでジャンヌ・ダルクのことをやっていたが、ジャンヌ・ダルクを演じていた女優さんがあまりにもかわいい娘だったので、僕はジャンヌ・ダルクのとりこになり、彼女のことをもっと知りたいと思い、町の図書館に、ジャンヌ・ダルクの本を探しに行った。

当時は、僕も、母の介護の真っ最中で、心の余裕など全く無く、彼女のことを知りたい一心で、自転車を走らせた。道すがら、フッとエヴァリスト・ガロアのことが頭に浮かんで来て (何故、ガロアのことを考えついたのか自分でも分らない)

そうだ！ジャンヌ・ダルクとエヴァリスト・ガロアが同時代にフランスに生きていたら、フランスはどうなっただろうかとフッと頭をよぎった。そうだ、これは面白い！

15世紀のフランスの神の子ジャンヌ・ダルクと、恋と革命と数学に生きた19世紀の若き天才数学者エヴァリスト・ガロア。

今は暇な時間が無いが、いつか暇ができれば、二人を主人公にして一大恋愛小説を書いてみたいと思っている。今少しずつではあるが、この小説の構想を練っている。

\*Galois Evariste (1811-1832)

フランスの数学者で代数方程式の解法に群の概念を導入したが、若くして決闘で倒れた。

## ◆ 2012年度 第2回理事会報告 ◆

日 時 : 2012年5月25日(金) 10:00~12:00

場 所 : 菜宴

出席者 : 坂本会長、三野副会長、濱副会長、浅井理事、井田理事、仲井理事、中野理事、三木理事

議 事 : 1) 前回理事会以降の活動を振り返る

①お花見会 ②クラブ活動

2) 当面の懸案事項 ①ホームページの維持管理体制・費用

②名簿作成の状況

③ムジークフェストならへの協力

④ モンナラの次号及び編集体制

3) 教養講座等の計画 (美術鑑賞/夏、講演会/秋)

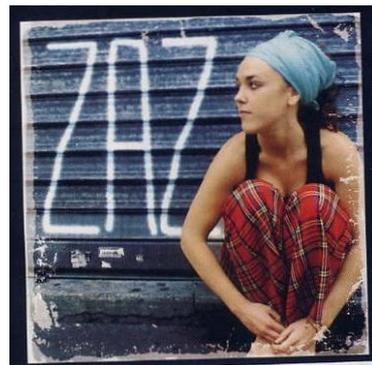
4) その他 20周年記念誌編集の始動時期等

## ZAZ・・・『ピアフの再来』？！

会員 中辻 純子（梨里香）

世にディーバと呼ばれる歌姫達がこの世を去った後、次代の卓越した歌唱力を持った歌手を「〇〇の再来」「第二の〇〇…」と称することはよくあることです。2月に来日したZAZもその一人。路上ミュージシャンとしてスタートしたこの歌手は、その歌唱力とハスキーヴォイス故、『ピアフの再来』という形容付きで紹介されるようになりました。

事実、彼女の声は一度聴くと忘れることができない程、個性的で不思議な魅力があります。そして、その歌声は本国フランスで人気No.1歌手ラファエルに見出され、彼にCDのプロデュースから楽曲まで提供されるという幸運を手に入れました。また、NHKの音楽番組で紹介されるや否や、日本の視聴者を虜にし、またたく間に番組の人気投票最上位に躍り出ました。



知名度も人気もすっかり上げての初来日。関西の公演会場《なんば Hatch》は、1000人を越える観客で開始の1時間前から熱気に溢れていました。しかしほとんどが立見席で、ロックコンサート中心の会場には、なんとなく不釣り合いな熟年カップルがチラホラ・・・。「ピアフの再来」というキャッチコピーに引き寄せられた往年のシャンソンファンの人達でしょうか。

しかしZAZの歌は、基本マヌーシュ・スイング、またはジャズやブルースのカテゴリーの音楽です。ピアフのナンバー『私の街で』(Dans ma rue) や、ブレルの『行かないで』(Ne me quitte pas) のカバーはありましたが、打楽器等を駆使したプログラムは、終始アップテンポで、観客との一体感、所謂‘ノリ’が求められます。またオリジナル曲が続く中、大勢の観客がそれをロクさんでいます。件の熟年カップル達は・・・と言えば、そのノリに、はたまた立見に耐えられなかったのか、中座する組いくつもあり。

「AからZまであらゆる音楽を表現する・・・」、それがZAZの名前の由来と聞いていますが、フランス語のZAZOU（ジャズ狂、特に大戦中ジャズに熱狂した若者を指す）という含みもあるのではないのでしょうか？ 4ビートでスイングしながら、アドリブ交じりに歌われる『ばら色の人生』(La vie en rose) は、エディット・ピアフの歌唱とはかなり趣が違います。ピアフ没後50年・・・。同じ音楽スタイルを求めるのは無理というもの。また、オランピア劇場公演、ヨーロッパツアー、全米ツアーの成功等華々しい活躍をする彼女にとっても、「ピアフの再来」という賛辞は、もはや必要ないのかもしれない。

現在、日本でよく歌われているシャンソンは、残念ながらフランスでは懐メロ扱いです。そして、ピアフもバルバラも、もう決して現れたりしないのです。「〇〇の再来」などありえないのです。けれども、今を時めく若手達が先人の名曲をそれぞれのスタイルで歌い継いでいること、その歌魂が今も息づいていること、それには驚かされます。

さて私事ですが、今秋、パリで初ライブを開催します。私の歌魂もどこまで通用するのか・・・？！  
ご自身の耳で確かめたい方、ご一緒にどうぞ！！

\*フランス語でシャンソンを

第2第4火曜日 10:30 ~ 12:00 於 富雄ミュゼット  
講座、コンサートの問合せ tel/fax 06-6922-6502

## ◆フランス生まれの手芸講座ご案内 ◆

暮らしにフランスを彩るフランス生まれの手芸講座。今回はフランスの伝統手工芸でもある『カルトナージュ・レッスン初級・・・ティッシュBOX』（簡単に作れてさりげなくおしゃれに♪）

日 時：2012年6月30日(土)13:30 ~ 15:30頃まで  
場 所：カフェテラス サンフラワー（近鉄新大宮駅北へ徒歩5分）  
会 費：4,000円（レッスン料、材料費、ドリンク付）  
持ち物：ハサミ、作品持ち帰り袋  
講 師：尼川 香陽子  
申込みと問い合わせ：事務局 中野まで 090-7750-8570



ジャメ先生の『猫』に導かれ…

「ジャメ先生と『猫』を読む」の講座では、比較文学・比較文化・語学の3つの側面から、漱石の作品にアプローチしています。フランス語と日本語の往復運動を通して、作家漱石とその作品の素晴らしさを堪能し、日本人であることが理由もなく嬉しく感じられ、同時に、ジャメ先生の奥行きのあるフランス語訳に接して、日本人にしかわからないだろうと思われたような感覚が、別の様相をまといながら見事に表現され、これまで少しずつでもフランス語を習ってきたことが幸せに思えてくる、そんな不思議な時間を体験しています。5月12日(土)の第2回目の講座には、15人もの参加者がジャメ先生の「山房」に駆けつけてくれました。回ごとに以下のようなテーマを掲げ、一つの段落を集中的に読んでいます。

第1回 4/14 : 猫と人間 Le chat et l'homme	第5回 10/13 : 会話 Conversation
第2回 5/12 : 吾輩の主人 Notre patron	第6回 11/10 : 日記 Journal
第3回 6/9 : 観察する Observer	第7回 12/8 : 引用 Citations
第4回 9/8 : 写生する Dessiner d'après nature	第8回 1/12 : 猫の「哲学」« Philosophie » d'un chat

- ◇次回日時 : 6月9日(土) 11:00 ~ 13:00
- ◇場 所 : 奈良フランス語クラブ(藤原町)
- ◇参加費 : 2000円(1回)
- ◇テキスト : プリントを配布
- ◇連絡先 : ジャメ先生 tel.0742-62-6822 clubfrancenara@kcn.jp  
浅井直子 tel. 0743-74-0371 Nasai206@aol.com

「ジャメ先生と『猫』を読む」に出席して

会員 藪田 章恵

「吾輩は猫である。名前はまだない。」で始まる有名な漱石の小説は、猫の目から見たなんとも不可解な人間の姿が描写されている。第1回目は「猫と人間」がテーマで、冒頭の1パラグラフを一文ずつ日本語で読み、続けてジャメ先生の訳されたフランス語の説明を受けながら追って行くというやり方で進められていた。ジャメ先生の訳から、先生は原文の一つ一つの単語が持つニュアンスを正確に捉えて、ご自身の持つおられる豊かなフランス語の語彙の中から、よりふさわしいものを慎重に選んでおられることが伝わってくる。例えば、タイトルの『吾輩は猫である』は、資料として渡された Jean Cholley 訳では、*Je suis un chat* となっているが、ジャメ先生は *Nous sommes Messire le Chat* と訳しておられた。「吾輩」という上から視線を *Messire* という言葉によって感じとることができるのだ。

また、この講座の目玉は、もう1人の先生である浅井さんが用意してくださった多くの資料である。2回目にいただいた「フランスにおける漱石の受容について」(濱田明)の中に優れた漱石の研究者としてのジャメ先生が紹介されていた。私たちはなんと贅沢な講座を受けているのかと思わずにはおれない。

◆奈良日仏協会シネクラブ 第28回例会の案内◆

5月の連休にダルデンヌ兄弟の最新作『少年と自転車』(2011)を観に行かれて、涙を流された方もおられるかもしれません。エモーショナルな音楽の使い方、明るい陽光のふり注ぐ川べりのサイクリングの場面など、これまでとは違う新たなダルデンヌの演出が印象的でした。その一方で、「父親との関係に葛藤する少年」を描くという点で、彼らが始めて脚光を浴びた作品『イゴールの約束』(1996)への原点回帰であるようにも感じられました。15年の歳月は私たちに様々なことを考えさせ、映画はまさに「時」の鏡でもあるようです。

- ◇日 時 : 6月10日(日) 13:30~17:00
- ◇会 場 : 奈良市西部公民館4階第2会議室
- ◇プログラム : 『イゴールの約束』(1996年)
- ◇参加費 : 日仏協会会員&学生 : 無料、非会員 : 300円
- ◇連絡先 : 浅井直子 Nasai206@aol.com

第106回 フランス・アラカルト開催

理事 森井 桂子

5月17日(木) 15時からいつものようにMardi Mardiにおいて、フランス・アラカルトを開きました。

今回の講師は、ヴィラ九条山に滞在中のフランス人作家、Thomas Reverdy さんです。参加者10名は、彼が作家としての道を歩まれるようになった経緯や、彼の作品、作品の主題について興味深いお話を聞きました。パリ生まれの彼は、幼い頃から詩などを書いていましたが、文学を学んでいた大学生の時、よき理解者だった建築家の祖父と経済学者だった母親を相次ぎ失い大きなショックを受けました。しかし、大学の客員教授だった作家の勧めで短編小説コンクールに応募し、出版社の人たちの応援もあって作家の道に進まれる事になったそうです。



彼によると、書き始めた時にすでに先が見えているのが短編小説で、書き始めたときには先は見えず、物語を構築しながら書き進めていくのが長編小説だとの事です。喪、悔悛、記憶、忘却そして特に行方不明 (disparaitre)をテーマにし、本格的長編小説となった四作目では、9・11事件後のニューヨークのワールド・トレード・センター跡地を巡る物語をサスペンス風に仕立て、今執筆中の五作目は特に「蒸発した人」の追跡がテーマで、日本を離れる9月までには仕上げたいとの事でした。来日の計画は昨年の1月にすでに立てていたので、3月の東日本大震災を意識して日本に来たのではないが、この大震災が彼に影響を与えたかという質問に対しては、答えるのはとても難しいが、しかし震災後社会的な変化は当然あるので影響が無いとは言えないだろうとの答えでした。日本の作家では、三島由紀夫、村上春樹、大江健三郎などを読んでいるが、谷崎潤一郎の作品に特に感銘を受けておられるようです。

彼から、一作目の La montée des eaux と四作目の L'envers du monde を寄贈していただきました。Mardi Mardi に置いていただいていますので、興味のある方は順次回覧して頂いて結構です。行方不明にならないようお願い致します。

◆次回 第107回フランス・アラカルトのお知らせ◆

日 時：2012年7月19日(木) 15:00 ~  
 会 費：会員 1,000円、一般 1,500円 (お菓子と紅茶つき)  
 場 所：カフェ「Mardi Mardi」 (マルディ・マルディ)  
 ※奈良市登美ヶ丘3丁目12-9 登美ヶ丘ビル1F (TEL/FAX:0742-44-5701)  
 学園前駅からバス(110・128・129・130・138・260番)で7分、  
 西登美ヶ丘二丁目バス停すぐ(駐車場あり) <http://mardimardi.exblog.jp/11477753/>  
 講 師：Lukas Hemleb  
 1960年ドイツ生まれの、ミュージカルやドラマなど幅広いジャンルの舞台監督。  
 主にフランスで活躍中ですが、日本語、中国語も堪能で世界各国を活動の場としている。  
 お問い合わせ：奈良日仏協会 0743-52-3939

\* 会員名簿掲載用紙返信のお願い \*

事務局より

3・4月号に同封しました会員名簿掲載用の返信用紙をまだ返信して下さっていない会員の方は、至急返信くださいますようお願いいたします。

皆様の投稿を常時募集しています!

モンナラでは会員の皆様の投稿を募集しています。論文、エッセイ、旅行記、最近の出来事、会員の皆様の活動などジャンルは問いません。なお、文章は、意味を変えない表現の変更等をさせて頂く場合があります。予めご了承下さい。奇数月15日が締切です。

Mon Nara Mai-juin 2012 5,6月合併号 Numéro250

奈良日仏協会 Association Franco-Japonaise de Nara

HP: <http://www.afjn.jp> E-mail: [afjn\\_info@kcn.jp](mailto:afjn_info@kcn.jp) TEL&FAX 0743-52-3939

〒630-8691 郵便事業株式会社奈良支店 私書箱30号(郵便物のみ)

発行責任者: 坂本成彦